

重点目標 (めざす姿)		重点目標及び具体的方策	主 担 当	【評価指標】	【評価の根拠】 達成度判断基準
1	組織的な学校運営	①〈安心・安全な学校生活・危機管理〉 児童が安心して明るく元気に学校生活を送れるよう、物心両面における安全管理と危機管理に努め、いじめ・不登校等の未然防止をはじめ、課題に対して組織的に迅速・適切に対応する。	教頭	学校全体として危機管理意識を高く持ち、いじめ・不登校等に対して日頃の「気づきと見取り」をはじめ、定期的な児童アンケートや面談等を通して早期発見に努めている。	【児童アンケート】 ・学校は楽しい。 【保護者アンケート】 ・お子さんは、楽しく学校へ通っている。 【教職員アンケート】 ・いじめや不登校等の課題に、組織として迅速・適切に対応している。 A: +評価90%以上 B: 80%～ C: 70%～ D: 70%未満
		②〈組織的な教育活動の推進〉 学校運営の状況や課題及び学力の傾向や課題について、全職員が共有し、組織的・計画的に取り組む。	教務	主任層を中心にPDCAサイクルを機能させ、互いに連携した組織的な教育活動を行っている。	【教職員アンケート】 ・「学校経営ビジョン」具現化のための各自の役割を認識し、組織的・計画的に実践し、検証を経て改善している。 A: +評価90%以上 B: 80%～ C: 70%～ D: 70%未満
		③〈業務改善〉 教職員が常に時間管理意識やワーク・ライフバランス意識を保持し、業務のスリム化・効率化・平準化を図る。	教頭	児童と向き合う時間の確保や多忙化改善に向け、業務の見直しや改善策が図られている。	【教職員実態調査】 ・時間外勤務時間の平均が45h以内の割合。 A: 平均40h以内 B: 平均45h以内 C: 平均45h以上
2	知へ確かな学力の育成	①〈基礎基本の育成〉 学習規律の確立と主体的な家庭学習により、基礎的知識・技能の定着を図る。	教務	学習規律が確立され、主体的に家庭学習に取り組んだ結果、基礎・基本の定着が成果として表れている。	【単元末テスト】 ・国語・算数の単元末テスト(知識・技能)の平均点 A: 90点～ B: 80点～ C: 70点～ D: 70点未満
		②〈主体的に学び目標達成する授業づくり〉 算数科を中心に、ねらいを明確にし見方・考え方を働かせた授業づくりの研究を推進することで、その単元でつけたい力を確実につけ、意欲的に思考し伝え合える児童の育成を図る。	研究	児童が、「分かる」「できた」「学び合いたい」という思いをもてるような授業づくりをしている。児童が、その単元でつけたい力をつけている。	【児童アンケート】 ・授業が分かる。 ・友達と交流することのよさを感じている。 A: +評価90%以上 B: 80%～ C: 70%～ D: 70%未満 【単元末テスト】 ・算数の単元末テスト(思・判・表)の平均点 A: 90点～ B: 80点～ C: 70点～ D: 70点未満
		③〈GIGAスクール構想の推進〉 GIGA校内研修推進リーダーを中心に、研修を行うことで、全教員が「児童が一人一台端末を効果的に活用して学ぶ授業」の実践力をつける。	G I 推 進 リ ー ダ ー 校 内 研 修	GIGA校内研修が計画的に行われ、全教職員が1日2時間以上の使用を目標にし、「児童が一人一台端末を活用して学ぶ授業での効果的活用」の実践を交流している。	【児童アンケート】 ・授業で、ICT機器を使って学ぶよさを感じている。 【教職員アンケート】 ・研修や実践交流をいかして、ICTを効果的に活用した授業を行っている。 A: +評価90%以上 B: 80%～ C: 70%～ D: 70%未満
3	徳へ豊かな心の育成	①〈積極的な生徒指導〉 共感的人間関係を育む言動を豊かにする積極的な生徒指導の取組を実践し、あたたかな人間関係でつながる学級経営を行っている。	生徒指導	教育活動全体で、「生徒指導の4つの視点」を意識した教育活動を行っている。	【教職員アンケート】 ・「生徒指導の4つの視点を生かす言葉かけ」を授業や行事の中で意図的に使うようにしている。 A: +評価90%以上 B: 80%～ C: 70%～ D: 70%未満
		②〈主体性・協働性の育成〉 学校生活全般において、主体的に取り組む姿の推進や互いを大切にした協働性を高める実践を通して、「より良い学級・学校を自分たちでつくる」という意識を高める。	児童指導 会	児童一人一人が「よりよい授業・学級・学校を自分たちでつくる」意識を持ち、児童自らが立てた目標を達成することができる。	【児童アンケート】 ・あいさつができた。 ・進んで行事や授業などの活動に取り組むことができた。 ・友達と協力して活動ができた。 A: +評価90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満
		③〈自己有用感の育成〉 授業や様々な行事・活動において、児童に成長しようとする意欲を持たせ、自己評価・相互評価を通し自己有用感を高める活動を実践している。	生徒指導	児童が前向きに活動に参加し、自分の成長を実感しながら自己有用感が高められるよう、行事や日々の活動を通して指導・支援を行っている。	【教職員アンケート】 ・児童が学校・学級や友達の役に立っていると感じられる活動を行っている。 A: +評価90%以上 B: 80%～ C: 70%～ D: 70%未満
4	体へ健やかな身体の育成	①〈体力・運動能力の向上〉 児童が主体的に取り組む体育科の授業や体育的行事の工夫・実施に努める。	保健主事	児童が、個人や集団として立てた目標に向かって意欲的に運動に取り組んでいる。	【児童アンケート】 ・重点種目(鉄棒・持久走)において各学年の目標を達成することができた。 ・体育の授業が好きだ。 【教職員アンケート】 ・児童が意欲をもって取り組めるよう授業を工夫している。 A: +評価90%以上 B: 80%～ C: 70%～ D: 70%未満
		②〈命を守る取り組みの推進〉 けが・熱中症予防等の指導を通して、自らの健康や命を守る判断力を育てる。	保健体育部	児童が、安全な生活について保健指導や避難訓練等で学んだことを、日常生活で実践している。	【児童アンケート】 ・安全な生活を送るための正しい行動を自分で考えてできている。 【教職員アンケート】 ・安全な生活の推進を養護教諭や保健委員会等と連携して取り組んでいる。 A: +評価90%以上 B: 80%～ C: 70%～ D: 70%未満
		③〈生活習慣の確立と心の調整力の育成〉 自らの心身の健康や生活習慣に関心を持ち、進んでよりよい生活習慣づくりを推進する。また、地域・保護者と連携して、家庭学習や生活のふりかえりシート等を利用し、生活リズムの確立に向けて取り組む。	保健体育部	「生活見直し週間(各学期)」の取組を通して、児童自らメディアの使用をコントロールし、規則正しい生活を送っている。	【児童アンケート】 ・各家庭で決めたメディアルールの達成率 A: +評価90%以上 B: 80%～ C: 70%～ D: 70%未満
5	家庭・地域との連携	①〈ふるさと愛の醸成〉 様々な体験を通して、能美市や根上の自然や歴史・産業・文化に触れ、ふるさとを愛する心と態度を養う。	教頭	生活や社会、総合的な学習、道徳を中心にゲストティーチャーを招聘したり体験活動をししたりして、ふるさとのことを学ぼうとしている。	【児童アンケート】 ・地域のことを調べたり学んだりして、能美市や根上のことがわかったり良さを発見したりできた。 【教員アンケート】 ・学校運営協議会と協力して、地域をいかす授業を行っている。 A: +評価90%以上 B: 80%～ C: 70%～ D: 70%未満
		②〈コミュニティスクールの推進〉 学校と地域・家庭が協働し、子どもを地域で支え育むため、学校運営協議会を充実させ、「開かれた学校」づくりを進める。	教頭	地域のものや人材の有効活用をはじめ、校内外の課題を効果的に協議・改善するため「学校運営協議会」の運営の充実に努めている。	【保護者アンケート】 ・学校・PTA・地域の活動や行事に参加している。 【学校運営協議会委員の意見】 ・学校と地域が目標を共有して、連携・協働して活動している。 A: +評価90%以上 B: 80%～ C: 70%～ D: 70%未満